

未来の庁舎を考える市民会議 提案報告書

1 会議名称

未来の庁舎を考える市民会議

2 会議の目的

市役所庁舎のあり方検討の参考とするため、将来、庁舎を利用することになる若い世代から、アイデアや意見を頂戴するため、会議開催したもの。

3 参加者 延べ 24 人（登録 30 人）※各回の参加者名簿のとおり

4 開催日程

第1回会議 令和4年7月23日（土）14時～16時30分

第2回会議 令和4年8月8日（月）18時30分から20時30分

第3回会議 令和4年9月26日（月）18時30分から21時

令和4年9月

宮 津 市

目 次

●提案概要	1
・第1グループの提案	2
・第2グループの提案	11
・第3グループの提案	19
・第4グループの提案	28

提案概要

ワークショップ形式で3回の会議を実施し、4つのグループから提案をいただいた

■ 第1グループ 『分散型コンパクトシティ』を目指して

【提案概要】

- 災害時における市役所機能維持の観点で分散配置とし、市民が活用する部署は福祉教育総合プラザに集約する。
- 本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、市民の交流スペースなどを設け、市役所が市民にとって親しみのある場所にする。これらの施設を「歩いていける距離」にまとめるとともに、市役所をシンボルとした地域活性化に繋げていく。

■ 第2グループ 未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案

【提案概要】

- 現庁舎は最低限の耐震性を備えるようリノベーションをし、住民の利用しやすい市役所にする。
- 現庁舎を資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する。
- 災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所へ移築する。上宮津小学校の利用を提案。
- 「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放し、維持費を賄う。
- 福祉教育総合プラザは現状維持とする。

■ 第3グループ 庁舎のあり方検討 ～分散型配置とDXの推進の視点から～

【提案概要】

- 本庁舎は建て替え、プラザは現状維持とする。
- オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合を行うとともに、災害対策、市民の交流スペースの確保、ZEBの実現を図る。

(※ZEB: Net Zero Energy Building、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと)

- 行政のDXの推進として、また、災害対策の面からもフリーアドレス制を提案する。

■ 第4グループ 人にもまちにも優しい新庁舎 ～未来への投資～

【提案概要】

- 本庁舎は、完全に建て替え、現在と同じ4階建てを想定、場所は現在のままとする。
- 市民向けの窓口は2階までに集約する。
- 別館は、現在1階にある部署を本館に集約し、取り壊し、職員駐車場として活用する。
- 福祉・教育プラザは、現状維持のままとする。
- プラザのみ又は本庁舎のみで手続きを完結させるワンストップ化を進める。
- 災害発生時には、避難所を災害対策本部として活用する。

『分散型コンパクトシティ』を目指して

グループ1 道林英鉄 伊藤沙也加
永井彩花 桑原瑞生
磯野恵

目次

- 1 宮津市庁舎の現状
- 2 第1回、2回市民会議の振り返り
- 3 提言
- 4 まとめ

宮津市庁舎の現状

【概要】

- ・ 約60年前の、昭和37年（1962）6月に完成
- ・ 世界的な建築家である丹下健三氏の門下生であり、京丹後市峰山町出身の沖種郎によって設計される
- ・ 市域のランドマークであり、非常事態時において防災活動の中核を担う最も重要な公共施設である。
- ・ 宮津市役所庁舎（本館、新館、別館）はいずれも耐震安全性を満たしていないこと等から、おおむね5年以内の実施を目標として更新することとしている。

第1回 市民会議（1班）

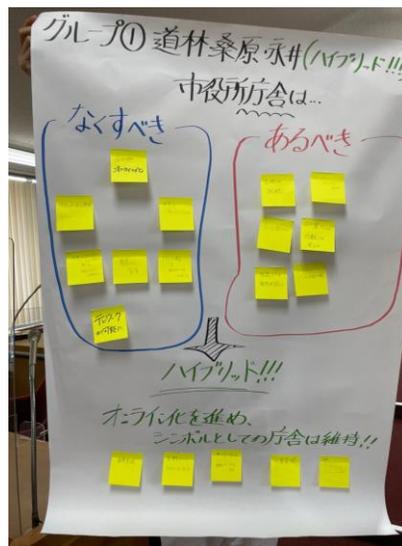
『バーチャル市役所の実現』

【なくすべき】

- ・ **オンライン化**
- ・ テレワークを可能に
- ・ 市民の利便性

【あるべき】

- ・ **町のシンボル**
- ・ **市民の相談窓口の必要性**
- ・ **土地の伝統**



第1回 市民会議（1班）

「市役所庁舎をなくすor残すの2つの方向性を討議」

- ・なくす方向の意見：オンライン化による利便性向上、**なくすことによる市のPR**につながる。テレワークなど職員の新たな働き方の実施、刑務所のような印象など
- ・残す方向の意見：**地域のシンボル**である。耐震化すると外観は変わってしまうなど

◎まとめ：オンライン化を進める一方で、市の象徴として庁舎を維持存続させる⇒**ハイブリット型**

第1回 市民会議（1班）

【課題】

- ・ **オンライン化**への道のり（多大な資金と時間の浪費）
- ・ **緊急時（災害時）**における配慮
- ・ 市民の**交流の場**（相談窓口など）の確保

第2回 市民会議（1班）

【事例研究1】

- ・大分県 津久見市庁舎の事例

「津波避難ビル」

- ・避難場所の形成
- ・司令塔機能
- ・ピロティと柱頭免震構造

「集客交流拠点施設との一体化」

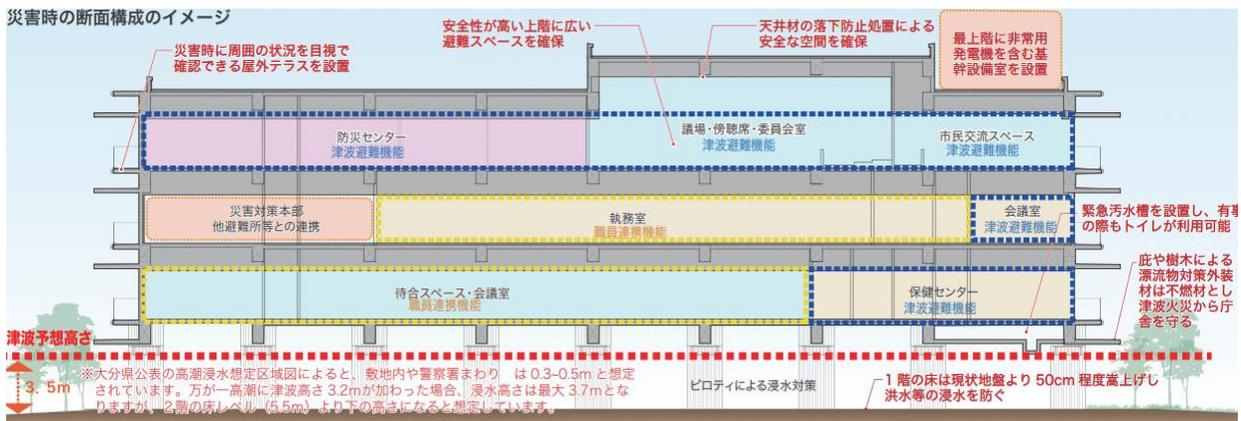


※津久見市新庁舎建設実施設計等業務より参考

提言

【事例研究1】

災害時の断面構成のイメージ



※津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書より抜粋

第2回 市民会議（1班）

●分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図ることができる。本庁舎、別館は取り壊し、**1階は駐車場等防災機能**、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も**市民の交流スペース（カフェ等）などに整備**する。

●**ミップルと本庁舎は分散**させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が**歩いていける**導線をつくり、人の流れを作り出すようにする。

提言

【本庁舎】

- ・ **完全に建て替えを行う**
⇒場所は現在の本庁舎と変わらない
- ・ **カフェの設置（市民の憩いの場）**
⇒宮津市にカフェなどの休憩スペースが少ないことから
- ・ **1階を駐車場にするなど（防災機能の充実）**
- ・ **バリアフリー等の整備**

提言

【ミップル】

- ・ 市民が多く利用する部署をミップルに移転する
⇒ **ミップルに部署を集約することにより、市民の本庁舎との往來を削減できると考えられる。**
- ・ 現在の建物や、子育て支援等の基盤は**維持する**
⇒ 「にっこりあ」など施設に加えて、様々な部署に行くことが可能になるため、利便性の向上が図られる。

提言

【別館】

- ・ 本庁舎と同様、**完全な建て替えを行う**
- ・ **市民の交流スペース**として活用する
⇒ **コワーキングスペースの建設や公園（広場）の建設**



【分散型コンパクトシティ】

・本庁舎、別館、ミップルなどで**機能を分散**

・同じ建物への集約を避けることで、**災害時における対応の幅が広がる**

・分散させた建物を「**歩いて移動可能な範囲**」に配置する。

・歩いていける距離に配置することで、**人の流れを生み出すことができる**

まとめ

- ・市民が活用する部署⇒ミップルに集約
- ・本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、**市民の交流スペース**などを設ける
⇒市役所が市民にとって親しみのある場所に
- ・これらの施設を「**歩いていける距離**」にまとめる
- ・**市役所をシンボルとした地域活性化**に繋げていく

参考文献

- 宮津市「市役所庁舎のあり方について」(2022) <https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/1/13645.html> (2022年9月20日閲覧)
- 高知県安芸市「安芸市新庁舎建設基本設計」(2020) <https://www.city.aki.kochi.jp/download/?t=LD&id=5784&fid=40888> (2022年9月19日閲覧)
- 大分県津久見市「津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書」(2021)
https://www.city.tsukumi.oita.jp/uploaded/life/21307_44968_misc.pdf (2022年9月20日閲覧)
- 朝日新聞「米原市役所本庁舎にコワーキングスペース 8月オープン」(2022)
https://www.asahi.com/articles/ASQ5C74H7Q5BPTJB007.html?iref=pc_photo_gallery_bottom (2022年9月20日閲覧)
- 京都府福知山市「市民交流プラザふくちやま概要」(2021年) <https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/39/2033.html> (2022年9月18日閲覧)
- 北海道砂川市「砂川市庁舎建設基本計画」<https://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/shisei/chousya/kihonnkeikaku.html> (2022年9月20日閲覧)
- 国土交通省「官民連携とは PPP/PFI」<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/1-1.html> (2022年9月10日閲覧)

ご清聴ありがとうございました



未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案

2グループ

堀、神近、上口、東山、中島、小西

▶ 目次

- 現庁舎のメリット・デメリット
- 新庁舎案
- 新設災害対策本部に関する案
- まとめ
- 参考文献

▶ 現庁舎のメリット

- 立地の良さ
 - ・ 宮津市の中心部に位置する→市民が利用しやすい
 - ・ 災害時、情報収集がしやすく災害対策本部を設置しやすい
- 建物自体の価値
 - ・ 有名な建築家の建築物

▶ 現庁舎のデメリット

- バリアフリー問題(トイレ・エレベーター)
- 庁舎の耐震問題
- 庁舎が大手川に近い問題
- 庁舎内の老朽化問題

以上のメリット・デメリットより.....

新築で建て替えるのが最善

- 現庁舎の場所に新築建替えとなると、
大手川が近いというデメリットがある。
- ⇒災害時の対策本部としては危険ではないか？
- ⇒災害時には対策本部を別の場所に設ける



結論：本庁舎は最低限の耐震性を備えて建て替え、
またDX化を中期的に導入、
災害時には対策本部を「空いている公共施設」を利用する

▶ 新庁舎案①庁舎内について

- 清潔感があり、だれもが訪れやすい雰囲気
の市役所に
 - ・ 食堂は一階に設置、市民利用をやすく
 - ・ だれでも利用可能なコミュニティスペースの設置
 - ・ 窓口はすべてローカウンター化
 - ・ 市民利用の多い窓口は1階、少ない窓口は2階へ

▶新庁舎案①庁舎内について

- 庁舎内のバリアフリー化
 - ・バリアフリースイールの設置
 - ・スロープ、手すり、点字、エレベーターの設置
 - ・エントランスにわかりやすい総合案内、もしくは総合案内係の配置
 - ・キッズコーナーや授乳室の整備
 - ・庁舎外に、いつでも公的書類を出力できる機械を設置(ミップルの中など)

新庁舎案②現庁舎の活用案

- 有名な建築家の建築物→解体はもったいない
 - ・資料保管庫
 - ・宿泊可能な実習・合宿施設として活用(マリーンピア)
→収入は災害拠点の維持費や設備投資に使用
 - ・会議室再整備後、市民へ開放
 - ・防災に関する市の関係課・係を配属

新設災害対策本部に関する案

■ 災害対策本部にどのような機能が欲しいか？

- ・ 停電や電力・水道供給が途絶えても機能すること。
→ 病院などの体制を方法を参考に考える
- ・ 避難者のための食料や必要な物資の備蓄設備
- ・ 対策本部要員が泊まり込みに対応できる設備
→ 冷蔵庫・お風呂・寝床・炊事場など最低限の確保
- ・ インターネット等の設備
→ 災害時すべての情報がココに集約されるため、管理できる設備を整える。

新設災害対策本部に関する案

■ 災害対策本部として「空いてる公共施設」の活用を提案

【現在空いている施設】

- ・ 上宮津小学校、宮津会館
→ 本部として集まりやすい場所
土砂災害や津波、洪水の危険度が低い場所
→ 海から少し離れ、少し高い場所にあり、市街地からそう遠くない場所
= 上宮津小学校？

※ただし、上宮津小学校は上宮津公民館の移転事業が予定されているため、その点の協議を重ねる必要あり

◆ 上宮津小学校の公民館移転事業についての資料

令和4年9月定例会		令和4年度9月補正予算 事業等説明資料【一般会計(第4号)】		(単位:千円)			
事業名	上宮津地区公民館の移転整備 (公民館整備事業)	充実	補正予算額	財 源 内 訳			
				国庫支出金	府支出金	市 債	その他
背景・経緯	施設の老朽化により、大規模改修または耐震工事が必要となっている上宮津地区公民館について、旧上宮津小学校を利活用し、移転整備するもの。 R2年9月 「宮津市公共施設再編方針書」により上宮津地区公民館の移転決定 R3年2月 上宮津地区公民館移転検討委員会の同意を得る R4年5月～ 地元検討委員会と実施設計に向けた施設内容の協議		8,000		8,000		0
			19,000				8,000
補正理由及び目的・目標	上宮津地区公民館を旧上宮津小学校校舎に移転整備し、生涯学習及び住民活動の基盤整備を行うことにより、多様な学習機会を創出し、生涯にわたりいきいきと学び続けられるまちづくりを目指すとともに、地域コミュニティの活性化を図る。						
事業概要	■上宮津地区公民館移転に係る実施設計 8,000千円 旧上宮津小学校校舎の一部を上宮津地区公民館(地区連絡所機能を含む。)に改修整備するための実施設計 ○整備内容(予定) 大会議室、調理実習室、和室、トイレ洋式化、身障者用トイレ、地区連絡所ほか	 	総計乗点 7/02/124	—			
			テーマ別戦略	ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり			
			施策分野	社会教育			
				【宮津市総合計画以外の計画】			
				R3 : 宮津市教育大綱・教育振興基本計画 ; R3～R7			
期待される効果等							・地域住民の生涯学習の意欲の向上 ・地域コミュニティの活性化 ・公共施設マネジメントの推進 遊休施設(廃校舎)を活用した公共施設の再編
担当部署	教育委員会事務局社会教育課 社会教育係		45-1642	8			

新設災害対策本部に関する案

■ 【上宮津小学校について考察】

※上宮津小学校は土砂災害の点で懸念があるが、洪水津波といった点からは危険度は低いと考えられる。

⇒小学校周辺の土砂災害リスクの把握、それに対する対策・整備が必要。

■ 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか。

◎拠点 を別に設ける = 維持費がかかる

- ・拠点・施設を使って収入を得る使い方もあり。
- ・収入は災害拠点の維持費や設備に使用。

新設災害対策本部に関する案

- 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか？
※普段は公民館として利用されるが、そのほかの利用方法

①宿泊可能な実習施設・研修・クラブ活動の合宿施設として活用

先行事例：田井にあるマリーンピアのようなイメージ

⇒これの山バージョンの施設のイメージ

②会議室などを整備し、現在、ミツルのコミュニティルームの貸出のように活用する

⇒但しミツルよりも駅から遠くなるため、日頃の会議や市民のサークルなどといった活用は見込めない可能性がある

③スポーツや絵本の読み聞かせ、はまなす文庫（移動図書館車）の立ち寄り場所にする

⇒子供たちからお年寄りまでの憩いの場にすることで、普段から災害対策本部の位置の場を市民に持ってもらう。

④防災に関する市の関係課・係を拠点に持つてくる

⇒但し、そうすることで不都合、不便にならないかなどあらゆる観点から考察が必要

新設災害対策本部に関する案

【留意点】

- ・長期的に見ると有事に備えて維持費がかかる。
- ・定期的な点検や必要な環境整備は適宜行なっていく必要がある。
- ・空いている公共施設に学校を上げる利点として、学校にはもともと調理室やトイレといった水回りの設備（上下水道）があることから、整備もしやすいのでは？という点。
=新たに上下水道を引くといった改修等の費用が抑えられる？

※常時の活用について

現在、防災関係の係は宮津消防署の2階に設置されていて、連携が密にとれるという観点から、わざわざ別の拠点に移す必要もない。

対策本部となる場所にある方がいいのか、消防と連携がとりやすいところにある方がいいのかを考える必要がある。

まとめ

- 現庁舎は建て替え。
- 最低限の耐震性を備え、住民の利用しやすい市役所へ。
- 現庁舎は普段は使用しない資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する
- 災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所への移築⇒上宮津小学校の利用を提案
- 「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放⇒維持費を賄える

参考文献

- 宮津市ホームページ「以下ハザードマップ等 - 防災・減災」
city.miyazu.kyoto.jp（2022年9月19日閲覧）
上宮津小学校周辺の情報
- 01宮津地区 (city.miyazu.kyoto.jp)
- 大手川洪水ハザードマップ (city.miyazu.kyoto.jp)
- sinsuisoutei_part7.pdf (pref.kyoto.jp)
- 宮津市「令和4年度宮津市9月補正予算(案)の概要」
<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/uploaded/attachment/7665.pdf>

庁舎のあり方検討

～分散型配置とDXの推進の視点から～

3グループ

平井未憂 吉田俊彦 村田唯衣 加畑凜 山中優芽
杉本朱里 中山優輝 井上桃 山本真緒



目次

1. 5つの視点再確認
2. 軸と方針
3. 行政機能のあり方検討
4. 先進事例から考える庁舎のあり方

5つ視点

視点1: 現建物の改修

視点2: 現地建替え

視点3: 非現地建替え

視点4: 他の建物の活用

視点5: バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現

視点ごとの評価

視点1

○場所が今と一緒なので
わかりやすい

●近いうちに建替えの検討
が発生する

視点2

○場所が今と一緒なので
わかりやすい

●全ての施設を面積が足り
るか疑問

視点3

○費用が比較的少ない、分
散もできる、よりアクセスがよ
い場所を検討できる

●アクセスしやすい場所にあ
るのか

視点5

○時間にとらわれずに手続
きできる、施設の費用がか
からない

●ネット環境が整っている人
ばかりでない

視点4

○費用が少ない、工事費が
それほどかからない

●ある程度の広さのある施
設が必要

着目する視点

視点1: 現建物の改修

視点2: 現地建替え

視点3: 非現地建替え

視点4: 他の建物の活用

視点5: バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現

軸と方針

施設利用者に応じた分散型配置とDXの推進による
視点2、視点3、視点5のハイブリッドがよい



本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持
オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合
人件費や維持費を削減

行政機能のあり方検討

本庁舎

- 行政機能
 - ・窓口の集約
 - ・交流スペース
 - ・防災機能: 発電・蓄電、予備電池
- 庁舎自体
 - ・バリアフリー: エレベーター
 - ・水害対策: 一階を駐車場にして建物の浸水対策
 - ・その他設備: ZEB、LED



ミップル

- ・交流スペース
- ・子育て関連
- ・会議室
- ・図書館
- ・学習スペース



取り入れたい視点

- 市民が集い議論を交わせるような、新しい何かを生み出す場所
- 非常時の市役所の役割



具体案 水害対策

- 浸水対策として敷地の高さを周囲の道路より1.2m高くするなど、災害時の行政活動維持を担保。



一階を駐車場にする：現本庁舎の浸水した際に想定される水深は、1.0m～2.0m未満。建物の一階部分を駐車場とすることで、空間を活用することができ、かつ、洪水対策にもなる。

鳥取県鳥取市
自治体面積：765.31km²
人口：183,638
人敷地面積：13,668.81m²
建築面積：5,437.01 m²
延床面積：22,269m²
階数：地下1階、地上7階



具体案 ヘリポートの設置

- 屋上でヘリコプターがホバリングできる緊急救助スペース
- 72時間分の非常用電源を確保できる自家発電装置等を備える



ヘリポートを災害対策の1つとして検討してみてもどうか

宮城県亶理町
自治体面積：73.6 km²
人口：33,665
敷地面積：
建築面積：
延床面積：約 7,040 m²
階数：地上3階



具体案 庁舎の開放

- 閉庁日のエントランスホールの町民開放
- 3階に眺望スペースを確保し、町民へ開放



庁舎を開放することで、市民により親しみを
庁舎が市民の交流の場になり得るのでは

岩手県紫波町
自治体面積: 239 km²
計画人口: 32,461 人
敷地面積: 6,602,777 m²
建築面積: 庁舎 2,584.05 m²
延床面積: 庁舎 6,650.43 m²
階数: 地上 4 階、地下 1 階



具体案 屋上の活用

- 太陽光パネル設置
- 屋上の緑化: ボランティアで野菜の作付けや花壇の整備を行っている。採れた野菜は庁舎2階の食堂で使用されることもある。



- ・太陽光発電で蓄電できれば災害対策にも
- ・屋上を有効活用し、花壇や畑を設けることで、市民の交流スペースになり得るのでは

東京都町田市
自治体面積: 71.8 km²
人口: 428,539 人
敷地面積: 15,969 m²
建築面積: 7,661 m²
延床面積: 41,510 m²
階数: 地下1階 地上 10 階



具体案 屋上の活用



東京都町田市
自治体面積: 71.8 km²
人口: 428,539 人
敷地面積: 15,969 m²
建築面積: 7,661 m²
延床面積: 41,510 m²
階数: 地下1階 地上 10 階



具体案 ZEBの実現

- ZEB認証 (Nearly ZEB: 最終値BEI=0.19 [削減率81%])
- 井水熱を利用した蓄熱槽など省エネ空調システムを採用



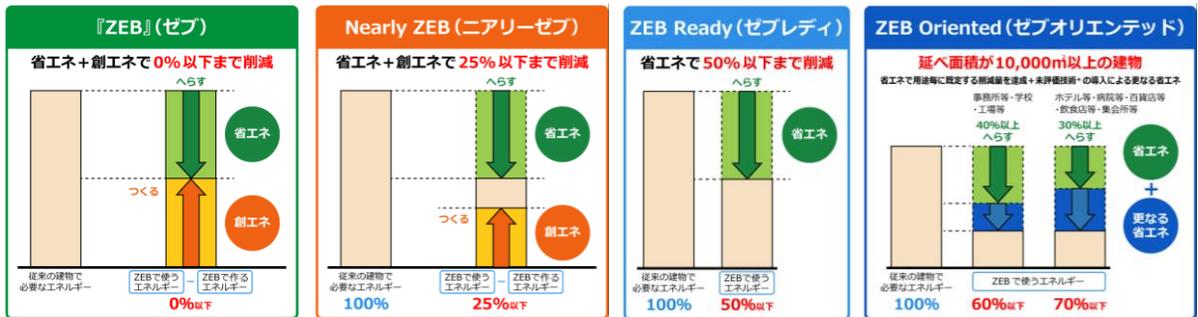
持続可能な庁舎を目指してZEBの実現を目指すのはどうか

神奈川県開成町
自治体面積: 6.56 km²
人口: 17,013
人数地面積: 8,134.28 m²
建築面積: 2,135.95 m²
延床面積: 3,891.31 m²
階数: 地上3階



ZEBとは

室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物



まとめ

本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持
オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合



- 災害対策
- 交流スペースの確保
- ZEBの実現

参考文献・参考HP

- 池上産業株式会社「町田市庁舎」『WOODWISE』<http://woodwise.jp/product/machida-cvosya/>（閲覧日：2022/9/22）
- オーチャード天橋立「アクセス・周辺施設の紹介」『オーチャード天橋立ホームページ』<https://amanohashidate.orchard-care.co.jp/access>（閲覧日：2022/9/22）
- 環境省「ZEBの定義」『ZEB PORTAL』<https://www.env.go.jp/earth/zeb/detail/01.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 経済産業省資源エネルギー庁 省エネルギー対策課「ZEBロードマップ検討委員会 とりまとめ」、平成27年12月
- 気仙沼市「近年の庁舎整備の事例」『気仙沼市ホームページ』https://www.kesennuma.miyagi.jp/sec/s014/shinntyousya/010/01-07_siryou5-2.pdf（閲覧日：2022/9/22）
- 紫波町「役場庁舎移転のお知らせ」『紫波町ホームページ』<https://www.town.shiwa.iwate.jp/chosei/shisetsu/1683.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 株式会社タウンニュース社「開成町全国初のZEB庁舎へ」『タウンニュース』<https://www.townnews.co.jp/0608/2017/08/26/396105.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 株式会社 松田平田設計「ZEB建築への取り組み国内初の Nearly ZEB庁舎、開成町新庁舎」<https://www.mhs.co.jp/feature/zeb-1-%e9%96%8b%e6%88%90%e7%94%ba/>（閲覧日：2022/9/22）
- 鳥取市「鳥取市のプロフィール」『鳥取市ホームページ』<https://www.city.tottori.lg.jp/www/genre/1255421895217/index.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 復興庁「亶理町役場新庁舎開庁式が開催されました【令和2年1月9日（宮城県亶理町）】」『復興庁ホームページ』<https://www.reconstruction.go.jp/portal/chiki/2020/20200120watar.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 町田市「4階屋上花畑のご案内」『町田市ホームページ』<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/shiyakusyo/mainoffice/yonkaihanabatake.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 三井住友建設株式会社「亶理町役場 亶理町保健福祉センター」『三井住友建設ホームページ』<https://www.smcon.co.jp/works/2019/12191525/>（閲覧日：2022/9/22）
- 宮津市「洪水ハザードマップ」『宮津市ホームページ』<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/site/bousaigensai/2431.html>（閲覧日：2022/9/22）
- <https://prurbanosichapp1.blob.core.windows.net/common-article/6023725aece4651c88c18098/jirei.pdf>（閲覧日：2022/9/22）
- NIPエンジニアリング株式会社「鳥取市新庁舎（鳥取県）」『NIPエンジニアリング株式会社ホームページ』<https://www.nipeng.co.jp/constructionresults/%E9%B3%A5%E5%8F%96%E5%B8%82%E6%96%B0%E5%BA%81%E8%88%8E/>（閲覧日：2022/9/22）

人にもまちにも優しい新庁舎 ～未来への投資～

第4グループ

吉田 楓太

野村 真未

森井 友也

由里 亮太

目次

- ①新庁舎のあり方について
- ②災害時の対応について
- ③庁舎整備のコスト面について

①新庁舎のあり方について

本館について

- **完全に建て替え**する（場所は現在のまま）
- 建て替え後も現在と同じ**4階建て**を想定
- 3～4階に窓口機能があると市民の方が昇り降りするのが大変であるため、**市民の方向けの窓口は2階までに集約**する



別館について

- 別館は現在1階以外使用していないため、現在**1階にある部署を本館に集約**する
- 車で通勤されている職員の方はミップルの隣にある「パーキングはままち」に駐車して徒歩で庁舎まで移動されている（本館まで約500m）

➡ 使わなくなった**別館のスペースを駐車場**にしては？



ミップル（福祉・教育分野の窓口）について

- ミップルについては**現状維持**



➡ 子育て世代の方が福祉・教育分野の窓口に行くついでに、お子さんと一緒に子育て支援センター「にっこりあ」に立ち寄りという流れが出来上がっていると考えられるため、福祉・教育分野の窓口も本館に集約してしまうとかえって不便になるのでは？

- ミップルの方に相談に来たものの、結局本庁舎に行って手続きを行わないといけないことがあるという市民の方の声があるため、可能な限り**ミップルと本庁舎の往来を減らすためにも窓口機能を集約**させる必要がある

➡ ミップルのみ又は本庁舎のみで手続きを完結させる**ワンストップ化**

他のまちの庁舎のバリアフリー事例①

川越町役場（三重県）

- 車いす兼用・視覚障害者対応エレベーターをはじめ、授乳室や多目的トイレなど、随所にユニバーサルデザインが取り入れられている
- また、環境に配慮し、太陽光発電パネルや雨水利用槽の設置、自然採光の積極的な利用など、省エネルギー性能にも優れた庁舎となっている



他のまちの庁舎のバリアフリー事例②

八幡市役所（京都府）

- 以前の八幡市役所の駐車場は、車いす使用者用駐車施設に路面表示のみであり、施設の場所がわかりにくい状態だった



- 標識の設置により施設の場所がわかりやすくなった

標識のマーク：オストメイト（人工肛門・人工膀胱を保有する方）、

心臓疾患など内部障がいのある方、補助犬と同伴の方、妊産婦の方



②災害時の対応について

宮津市の防災拠点施設について

- 私たちのグループでは、本庁舎とミップルに市役所の機能を集中させることを提案した
しかし、本庁舎が被災すると行政の機能（災害対策本部の設置や公助の部分）が停滞してしまう可能性がある
また、ミップルについても海に近いことから津波のリスクがあり、万が一に備えて本庁舎とミップル以外の災害発生時における行政の拠点を考える必要がある



- 現在、宮津与謝消防署宮津分署が宮津市の防災拠点施設になっているが、消防署は本庁舎から近い位置（約100m）にあるため、本庁舎が被災した際に消防署も被災している可能性がある

宮津市の避難所について

- 避難所のどこかを災害発生時における行政の拠点にするにしても、一つの避難所を指定するのは望ましくない



例)

- 宮津小学校は山から離れた所にあるため土砂災害に遭うリスクは少ないが、近くにある川の氾濫による洪水被害に遭う可能性がある
- 宮津中学校は海や川から離れた所にあるため津波や洪水被害に遭うリスクは少ないが、山の方にあるため土砂災害に遭う可能性がある



etc.

防災拠点施設の候補案

- 災害対策本部の立ち上げは迅速であることが求められるため、災害発生時における行政の拠点は本庁舎からできるだけ近い位置にあることが望ましい

提案

本庁舎から近い位置にある避難所を数カ所ピックアップし、本庁舎とミップルが被災した場合、ピックアップした中から災害の発生状況に応じて、**被災リスクが最も低いと考えられる避難所**を災害発生時における行政の拠点とする



③庁舎整備のコスト面について

PFI

- 「**PFI** (Private Finance Initiative) 」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法
- PFIの導入により、国や地方公共団体の**事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供**を目指すことができる

PFIの事例（貝塚市役所）

- 貝塚市役所本庁舎は、建設から50年以上が経過し、老朽化が進んでいることに加え、耐震性能が不足している
- 貝塚市でのPFI事業では、新庁舎に福祉センターや教育庁舎、保健・福祉合同庁舎等の機能を統合することで、ワンストップサービスによる市民の利便性の向上をはかるとともに、防災機能拠点を備えた新庁舎の整備を目的としている



ESCO事業

- 省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費の削減分で賄う事業
- ESCO事業の実施により自治体が損失を被ることがないように、事業採算性が重視され、自治体の**新たな財政支出を必要としない**
- 契約期間終了後の光熱水費の削減分は**全て自治体の利益になる**

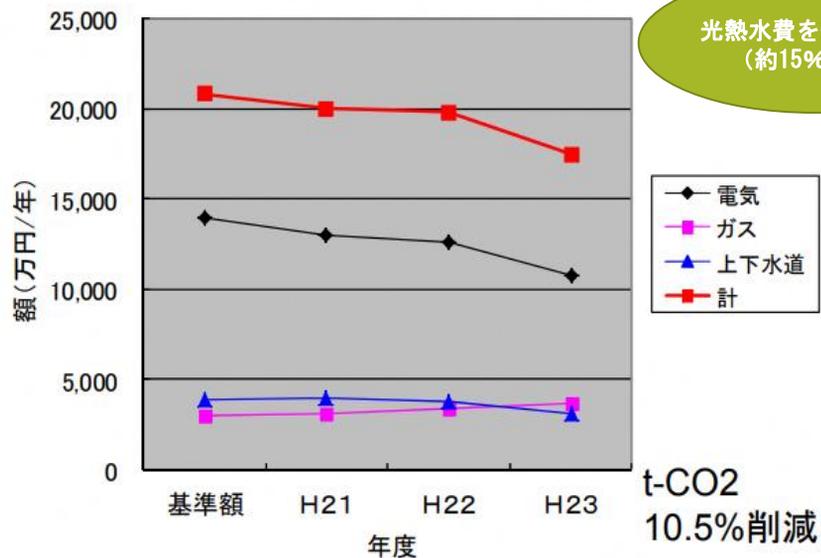
ESCO事業の事例（福岡市役所）

- 冷温水ポンプの運転台数削減
- 電気室の排熱を暖房に利用
- 電算室の恒温恒湿管理



ブラインドと遮光カーテンによる二重保温

福岡市本庁舎光熱水費の推移



サブタイトルの「未来への投資」について

将来にわたって宮津市民の方々に利用して
いただけるような持続性のある庁舎をつくる



庁舎整備は未来への先行投資

参考文献

- Wikipedia「宮津市立宮津中学校」（2020）<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82%E7%AB%8B%E5%AE%E6%B4%A5%E4%B8%AD%E5%AD%A6%E6%A0%A1>（2022年9月19日閲覧）
- エコチューニング推進センター「自治体における先進事例」（2022）https://eco-tuning.j-bma.or.jp/wp-content/uploads/2021/06/ecochu_03.pdf（2022年9月20日閲覧）
- 環境省「1.「ESCO事業の概要」」（2022）<https://www.env.go.jp/council/35hairyo-keiyaku/y352-01/ref06-2.pdf>（2022年9月19日閲覧）
- サイネックス「くらしの情報誌・生活便利帳 みやづ暮らし」（2020）<https://ebooks.wagamachi-apps.com/book-search/viewsearch/bookNum/2625/schSearchType/freeWord/schKeyword/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82/actionMode/search/changeMode/List/keyFlg/0/>（2022年9月19日閲覧）
- さとうグループ「【加工食品担当】<<宮津市>>◆アルバイトデビュー歓迎！◆社員登用制度あり！【京都府宮津市】 - 求人情報詳細」（2022）https://sato-kyoto-recruit.com/satokyoto2/A61003650915/MDkyujin_d.htm（2022年9月18日閲覧）
- 東芝エレベータ株式会社「川越町新庁舎 | 新設 施工事例」（2007）<https://www.toshiba-elevator.co.jp/elv/case/new/082.html>（2022年9月18日閲覧）
- docomomo「宮津市庁舎」（2022）<https://www.docomomojapan.com/structure/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82%E5%BA%81%E8%88%8E/>（2022年9月18日閲覧）
- top10place.com「パーキングはままち | Parking | Miyazu-shi」（2022）<https://jp.top10place.com/-1398367200.html>（2022年9月18日閲覧）
- 内閣府「PPP/PFI事例集：民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI推進室）」（2022）https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/jireishuu/jireishuu_index.html（2022年9月19日閲覧）
- 内閣府「PPP/PFIとは：民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI推進室）」（2022）https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/aboutpfi/aboutpfi_index.html（2022年9月19日閲覧）
- 日本の城写真集「宮津城 移築城門（宮津小学校）」（2021）<http://castle.jpn.org/tango/miyazu/1.html>（2022年9月19日閲覧）
- ボーンレンド『子育て支援センター「にっこりあ』』（2022）<https://www.bornelund.co.jp/results/childcare-support/3583.html>（2022年9月18日閲覧）
- 三菱HCキャピタル株式会社「貝塚市新庁舎整備事業 | PFI事業」（2022）<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/service/mul/pfi/example/example37.html>（2022年9月19日閲覧）
- 宮津市「商工観光課」（2022）<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/9/>（2022年9月18日閲覧）
- 宮津と謝消防組合消防本部「宮津と謝消防署 宮津分署」（2022）<http://www.miyavo119.jp/miyazu.html>（2022年9月18日閲覧）
- 八幡市「バリアフリー化の整備状況 ～八幡市バリアフリー基本構想～」（2014）<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000000037.html>（2022年9月18日閲覧）